

2016年度の特別研究期間においては、研究課題にしたがい、資料調査とフィールド調査を行った。前者の資料調査は、公益財団法人日本交通公社「旅の図書館」、東京都立中央図書館、日本近代文学館、JR 東日本鉄道文化財団鉄道博物館ライブラリー、東京国立近代美術館アートライブラリー、東京国立近代美術館フィルムセンター、北海道立図書館、北海道大学図書館、札幌市立図書館、函館市立図書館、函館市立博物館などの現地での資料調査と、国立国会図書館デジタルアーカイブなどのオンラインデータベースでの調査、そして古書店目録の調査によった。また後者のフィールド調査では、東京都内、北海道内、京都府内、大阪府内、兵庫県内、そして国外の 아일랜드、イギリス、ドイツ、スイス、オーストリア、イタリアにおいておこなった。

資料調査においては、近代期における日本内地、樺太、朝鮮、満洲、台湾でのツーリズムに関する旅行案内書、雑誌、リーフレット、絵はがきなどの印刷出版物を対象とした。またフィールド調査においては、近代期における旅行案内書等に記載された事項の確認と、現代において文化遺産や自然資源を観光へ活用する実態の調査、そして各地における旅行地図類の収集、スイス、オーストリア、イタリアの国境地帯では、観光情報の多言語表記に関する資料収集をおこなった。

資料調査の成果の一部は、単著論文「海上旅行の近代化と日本郵船—航路網の形成と『航路案内』の刊行を通して—」（関西学院史学第44号、2017年、pp.49～73.）として発表した。また（財）日本交通公社「旅の図書館」の招待講演「近代日本における旅行案内書の歩み」（2017年3月）においては、これまでの研究成果を踏まえ、明治初期から昭和戦前期に至るおよそ70年間に刊行された、旅行案内書の歴史的な系譜についてとりあげた。

2013年から2015年にかけて、旅行案内書復刻シリーズ（シリーズ「明治・大正の旅行」第Ⅰ期、全26巻、ゆまに書房）の監修と解説文執筆を担当してきたが、同シリーズの第Ⅱ期を2017年度からは始めるにあたり、特別研究期間において、復刻すべき近代ツーリズムの印刷出版物の調査と復刻に関わる事務的な交渉、ならびに手続きをおこなった。なおこの企画は、ジャパン・ツーリスト・ビューローによって編集発行された雑誌『ツーリスト』のうち、創刊号（1913年）から1926年までの刊行分を復刻し、論文集を別冊として出版するものである。2017年7月に第1回配本を予定している。

また、旅行関連の案内書や雑誌の復刻出版に関しては、不二出版による『旅行満洲』、『観光東亜』ならびに『旅行雑誌』の復刻（2016年から2019年にかけて順次刊行）への協力と、同社において2018年からはじめられる予定の海上ツーリズムに関する旅行雑誌復刻の資料調査をすすめた。

ところで、これまでのおよそ10年間の資料調査によって、明治初期から昭和戦前期までの日本内地、樺太、朝鮮、満洲、台湾における旅行案内書ならびに旅行雑誌の概要を把握することができた。2016年度の特別研究期間において、そうした調査データの整理と書誌の作成をはじめた。すなわち、近代日本における旅行案内書の系譜は、およそ次の8つの大分類、ならびに35の小分類によって整理することが可能である。8つの大分類とは、1）近代の名所図会と近代の道中記、2）私鉄と官営鉄道による鉄道沿線の旅行案内書、3）鉄道管理局と鉄道局による旅行案内書、4）外地／植民地の旅行案内書、5）海上旅行の案内書、6）ジャパン・ツーリスト・ビューローなどによる旅行案内書、7）英文旅行案内書、8）旅行雑誌、である。

こうした旅行案内書の系譜を明らかにする研究は、これまで体系的にはなされておらず、本研究の持つ意義である。特別研究期間という時間的な余裕が与えられたことによって、このような基礎研究をすすめることができたと考えている。